

別表1 薬学研究科薬学専攻博士課程（4年課程）
授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数	
選 択 専 門 科 目	医療・薬物療法分野	臨床薬物解析学	2
		臨床薬剤学	2
		膜輸送体学	2
		病院薬剤学	2
		病態解析学	2
		医薬品動態学	2
		臨床実践薬学	2
		臨床薬物動態学	2
		医薬品情報評価学	2
	薬剤疫学	2	
	健康・高齢者医療分野	予防分子栄養学	2
		細菌病原因子学	2
		応用毒性学	2
		予防衛生薬学	2
		医療統計学	2
		高齢者医療学	2
		環境分子毒性学	2
		地域医療薬学	2
		有機金属化学	2
	医薬品開発・高度医療分野	反応有機化学	2
		創薬天然物化学	2
		メディシナケルケミストリー	2
		神経生理科学	2
		有機精密構造解析化学	2
		分子神経生理学	2
		生体有機化学	2
		薬理ゲノミクス	2
		薬品生物物理化学	2
		薬用遺伝子資源学	2
		シグナル伝達	2
		機能性分子合成化学	2
		創薬シーズ資源化学	2
		腫瘍解析治療学	2
		天然医薬資源科学	2
		医薬品創製特論	2
		神経活性天然物化学	2
不斉合成化学		2	
分子集積体化学	2		
グリーン（創薬）化学	2		
医薬品合成化学	2		
医療解析・医療安全分野	医薬品解析学	2	
	医薬蛋白質科学	2	
	脳疾患解析学	2	
	分子免疫制御学	2	
	ゲノム生物科学	2	
	創剤科学	2	
	バイオインフォマティクス	2	
	機能分子解析学	2	
	生物機能応用学	2	
	レギュラトリーサイエンス	2	
必修 専門科目	薬学演習	※4	
	薬学専門研究	※12	

※は必修

修了に必要な要件として、選択専門科目より18単位（9科目）以上、必修専門科目より16単位の併せて34単位以上を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

選択専門科目は各2単位とし、9科目以上を選択する。ただし、4分野から少なくとも1科目以上を選択する。

別表2 文学研究科地域文化専攻博士前期課程
授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数
文 化 と 地 域	地域文化学特講 I	2
	地域文化学特講 II	2
	地域文化学演習	4
	地域文化史特講 I	2
	地域文化史特講 II	2
	地域文化史演習	4
	都市地域学特講 I	2
	都市地域学特講 II	2
	都市地域学演習	4
	地域地形学特講 I	2
	地域地形学特講 II	2
	地域地形学演習	4
	比較文化特講 I	2
	比較文化特講 II	2
	比較文化演習	4
	言語文化史特講 A I	2
	言語文化史特講 A II	2
	言語文化史特講 B I	2
	言語文化史特講 B II	2
	言語文化史演習	4
	地域考古学特講 I	2
	地域考古学特講 II	2
	地域考古学演習	4
	地域史特講 I	2
地域史特講 II	2	
地域史演習	4	
地域情報論特講 I	2	
地域情報論特講 II	2	
地域情報論演習	4	
言語情報論特講 I	2	
言語情報論特講 II	2	
言語情報論演習	4	
言 語 ・ 文 学 と 地 域	言語学特講 I	2
	言語学特講 II	2
	言語学演習	4
	国語学特講 I	2
	国語学特講 II	2
	国語学演習	4
	英語学特講 A I	2
	英語学特講 A II	2
	英語学特講 B I	2
	英語学特講 B II	2
	英語学演習	4
	日本文学特講 A I	2
日本文学特講 A II	2	
日本文学特講 B I	2	
日本文学特講 B II	2	
日本文学特講 C I	2	
日本文学特講 C II	2	
日本文学特講 D I	2	
日本文学特講 D II	2	
日本文学演習	4	
英文学特講 A I	2	
英文学特講 A II	2	
英文学特講 B I	2	
英文学特講 B II	2	
英文学演習	4	

修了に必要な要件は、修士論文にかかわる特講の演習4単位を含め32単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表2-2 文学研究科地域文化専攻博士後期課程
授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数
文 化 と 地 域	地域文化学特別研究Ⅰ	2
	地域文化学特別研究Ⅱ	2
	地域文化学特別研究課題演習	4
	地域考古学特別研究Ⅰ	2
	地域考古学特別研究Ⅱ	2
	地域考古学特別研究課題演習	4
	地域史特別研究Ⅰ	2
	地域史特別研究Ⅱ	2
	地域史特別研究課題演習	4
	都市地域学特別研究Ⅰ	2
	都市地域学特別研究Ⅱ	2
	都市地域学特別研究課題演習	4
	環境歴史学特別研究Ⅰ	2
	環境歴史学特別研究Ⅱ	2
	環境歴史学特別研究課題演習	4
	言 語 ・ 文 学 と 地 域	言語学特別研究Ⅰ
言語学特別研究Ⅱ		2
言語学特別研究課題演習		4
言語文化史特別研究AⅠ		2
言語文化史特別研究AⅡ		2
言語文化史特別研究課題演習A		4
言語文化史特別研究BⅠ		2
言語文化史特別研究BⅡ		2
言語文化史特別研究課題演習B		4
英語学特別研究Ⅰ		2
英語学特別研究Ⅱ		2
英語学特別研究課題演習		4
日本文学特別研究AⅠ		2
日本文学特別研究AⅡ		2
日本文学特別研究課題演習A		4
日本文学特別研究BⅠ		2
日本文学特別研究BⅡ	2	
日本文学特別研究課題演習B	4	
英文学特別研究AⅠ	2	
英文学特別研究AⅡ	2	
英文学特別研究課題演習A	4	
英文学特別研究BⅠ	2	
英文学特別研究BⅡ	2	
英文学特別研究課題演習B	4	

修了に必要な要件は、博士論文にかかわる特別研究4単位及びその課題演習4単位、計8単位を必修とし、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

又、必修科目以外の授業科目を履修する場合は指導教員の指示をうけること。

別表3 工学研究科システム制御工学専攻博士前期
課程授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数
システム 制御基礎	制御工学特論Ⅰ	2
	制御工学特論Ⅱ	2
	システム工学特論Ⅰ	2
	システム工学特論Ⅱ	2
	システム制御工学特論	2
	電子情報通信基礎工学特論	2
	信頼性工学特論	2
	生産システム制御工学特論	2
システム 計測制御	生体計測制御工学特論	2
	熱流体計測工学特論	2
	環境計測工学特論	2
	電子計測制御工学特論	2
	システム情報計測	2
システム 情報計測	計算機工学特論	2
	情報伝送工学特論	2
	光画像工学特論	2
システム 制御応用	情報システム工学特論	2
	流体振動制御工学特論	2
	交通輸送制御工学特論	2
システム 制御特別 実 験	産業ロボット工学特論	2
	自然環境システム工学特論	2
	環境シミュレーション実験	2
システム 制御特別 演 習	プロセス制御・機械工学実験	2
	生体医用応用工学実験	2
	振動・制御力学演習	2
システム 制御工学 関連科目	品質管理シミュレーション演習	2
	システム制御工学演習	2
	応用力学特論	2
	機械振動工学特論	2
	機械材料工学特論	2
	電子材料工学特論	2
エネルギー変換工学特論	2	
データサイエンス特論	2	
システム制御ゼミナール	※4	
システム制御特別研究	※8	

※は必修 他は選択

- (1) 修了に必要な要件は、必修12単位を含み、30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
- (2) ただし、修了に必要な選択科目の単位には、工学研究科の他専攻博士前期課程の選択科目を履修して単位取得した場合には、4単位まで含めることができる。

別表3-2 工学研究科システム制御工学専攻博士
後期課程授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数
システム 制御工学 基 礎	システム制御工学特別研究Ⅰ	2
	システム制御工学特別研究Ⅱ	2
	情報工学特別研究Ⅰ	2
	情報工学特別研究Ⅱ	2
	信頼性工学特別研究	2
	計算機工学特別研究	2
	システム制御工学基礎特別研究	2
システム 制御工学 応 用	生産システム工学特別研究	2
	エネルギー変換工学特別研究	2
	流体制御工学特別研究Ⅰ	2
	流体制御工学特別研究Ⅱ	2
	ロボット工学特別研究	2
	自然環境システム工学特別研究	2
	システム制御工学応用特別研究	2
関連科目	精密機械材料工学特別研究	2

修了に必要な要件は、システム制御工学基礎特別研究又はシステム制御工学応用特別研究2単位、システム制御工学基礎分野より2単位、システム制御工学応用分野より2単位、計6単位を含み、8単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表3-3 工学研究科ナノ物質工学専攻博士前期
課程授業科目及び単位数

授 業 科 目			単位数		
ナノ 物質 工学 専 門 科 目	材料 科学 系	光物質 工学分野	光物性工学特論Ⅰ	2	
			光ナノ物質工学特論Ⅰ	2	
			光情報材料工学特論Ⅰ	2	
		ナノ材料 工学分野	ナノ高分子工学特論Ⅰ	2	
			電子材料工学特論Ⅰ	2	
			ナノ薄膜工学特論Ⅰ	2	
	生命 科学 系	微生物 工学分野	酵素工学特論Ⅰ	2	
			分子遺伝学特論Ⅰ	2	
			遺伝子工学特論Ⅰ	2	
		薬科学 分野	先進医療薬学特論A	2	
			先進医療薬学特論B	2	
			生物薬学特論A	2	
			生物薬学特論B	2	
			創薬科学特論A	2	
			創薬科学特論B	2	
			疾病薬学特論A	2	
			疾病薬学特論B	2	
			ナノ物質工学 特別講義	光物質工学特別講義	2
				微生物工学特別講義	2
				ナノ材料工学特別講義	2
ナノ物質工学 関連科目	データサイエンス特論	2			
	物理化学特論Ⅰ	2			
	応用数学特論Ⅰ	2			
	工 学 英 語	2			
ナノ物質工学ゼミナールⅠ			※4		
ナノ物質工学特別研究Ⅰ			※12		

※は必修 他は選択

- (1) 修了に必要な要件は、必修16単位を含め30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
- (2) ただし、修了に必要な選択科目の単位には、工学研究科の他専攻博士前期課程の選択科目を履修して単位取得した場合には、4単位まで含めることができる。

別表3—4 工学研究科ナノ物質工学専攻博士後期課程授業科目及び単位数

授 業 科 目			単位数
ナノ物質工学専門科目	光物質工学分野	光情報材料工学特論Ⅱ	2
		光ナノ物質工学特論Ⅱ	2
	微生物工学分野	酵素工学特論Ⅱ	2
		ナノ高分子工学特論Ⅱ	2
	ナノ材料工学分野	電子材料工学特論Ⅱ	2
		ナノ薄膜工学特論Ⅱ	2
ナノ応用材料工学特論Ⅱ		2	
ナノ物質工学ゼミナールⅡ			※2
ナノ物質工学特別研究Ⅱ			※6

※は必修 他は選択

修了に必要な要件は、必修8単位を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表4 人間生活学研究科食物学専攻博士前期課程授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数
食品生化学特論Ⅰ		2
食品生化学特論Ⅱ		2
食品生化学特別実習		1
食品材料化学特論Ⅰ		2
食品材料化学特論Ⅱ		2
食品材料化学特別実習		1
食品学特論Ⅰ		2
食品学特論Ⅱ		2
食品学特別実習		1
食品衛生学特論Ⅰ		2
食品衛生学特論Ⅱ		2
食品衛生学特別実習		1
食品分子生理学特論Ⅰ		2
食品分子生理学特論Ⅱ		2
食品分子生理学特別実習		1
調理科学特論Ⅰ		2
調理科学特論Ⅱ		2
調理科学特別実習		1
栄養化学特論Ⅰ		2
栄養化学特論Ⅱ		2
栄養化学特別実習		1
栄養生理学特論Ⅰ		2
栄養生理学特論Ⅱ		2
栄養生理学特別実習		1
分子栄養学特論Ⅰ		2
分子栄養学特論Ⅱ		2
分子栄養学特別実習		1
病態栄養学特論Ⅰ		2
病態栄養学特論Ⅱ		2
病態栄養学特別実習		1
食物学特別演習		※1
食物学特論実習		※1
特別研究		※12

※は必修 他は選択

修了に必要な要件は、必修14単位を含め30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表4—2 人間生活学研究科生活環境情報学専攻
博士前期課程授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数
生 活 科 学 分 野	生活文化特論 I	2
	生活文化特論 II	2
	生活経営学特論 I	2
	生活経営学演習 I	1
	生活経営学特論 II	2
	生活経営学演習 II	1
	生活経済学特論 I	2
	生活経済学演習 I	1
	生活経済学特論 II	2
	生活経済学演習 II	1
	生活行政学特論 I	2
	生活行政学演習 I	1
	生活行政学特論 II	2
	生活行政学演習 II	1
	運動生理学特論	2
運動生理学演習	1	
自 然 科 学 分 野	衣生活環境学特論 I	2
	衣生活環境学特論 II	2
	食生活環境学特論 I	2
	食生活環境学特論 II	2
	住生活環境学特論 I	2
	住生活環境学特論 II	2
	環境情報学特論 I	2
	環境情報学演習 I	1
情 報 科 学 分 野	生活情報システム特論 I	2
	生活情報システム演習 I	1
	生活情報システム特論 II	2
	生活情報システム演習 II	1
	生活情報学特論 I	2
	生活情報学演習 I	1
	生活情報学特論 II	2
	生活情報学演習 II	1
	地域・市場調査特論	2
	地域・市場調査演習 I	1
地域・市場調査演習 II	1	
関 連 科 目	家政学特論	2
	被服学特論	2
	栄養学特論	2
	食品学特論	2
	住居学特論	2
	統計数学特論 I	2
	統計数学演習 I	1
	統計数学特論 II	2
統計数学演習 II	1	
情報機器演習	1	
特 別 研 究	※8	

※は必修 他は選択

修了に必要な要件は、必修8単位を含め30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表4—3 人間生活学研究科児童学専攻博士前期
課程授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数
基 礎 科 目	人間形成学特論 I	2
	人間形成学特論 II	2
	人間形成学演習	1
	家族関係学特論 I	2
	家族関係学特論 II	2
	家族関係学演習	1
	児童保健学特論 I	2
	児童保健学特論 II	2
	児童保健学演習	1
	児 童 教 育 学	児童教育学特論 I
児童教育学特論 II		2
児童教育学演習		1
児童実践教育学特論 I		2
児童実践教育学特論 II		2
児童実践教育学演習		1
児童教育方法論特論 I		2
児童教育方法論特論 II		2
児童教育方法論演習		1
特別支援教育学特論 I		2
特別支援教育学特論 II		2
特別支援教育学演習		1
児童教育相談演習 I	1	
児童教育相談演習 II	1	
特 別 研 究	※8	

※は必修

修了に必要な要件は、必修8単位を含め30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表4—4 人間生活学研究科心理学専攻（臨床心理学コース）博士前期課程授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数
基 幹 科 目	臨床心理学特論Ⅰ	※2
	臨床心理学特論Ⅱ	※2
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）	※2
	臨床心理面接特論Ⅱ	※2
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	※2
	臨床心理査定演習Ⅱ	※2
	臨床心理基礎実習Ⅰ	※1
	臨床心理基礎実習Ⅱ	※1
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	※1
	臨床心理実習Ⅱ 心理実践実習Ⅱ	※1 9
A 群	心理統計法特論	2
	臨床心理学研究法特論	2
	心理学特別演習	1
B 群	人格心理学特論	2
	発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
C 群	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
	矯正処遇心理学特論	2
	臨床心理関連行政論	2
D 群	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ）	2
	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ）	2
E 群	投 映 法 特 論	2
	心 理 療 法 特 論 Ⅱ	2
そ の 他	心理療法特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ）	2
	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2
	臨床心理地域援助特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ）	2
	グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）	2
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2
	心の健康教育に関する理論と実践	2
特 別 研 究	※8	

※は必修

- 修了に必要な要件は、必修24単位、選択必修として、臨床心理士資格認定協会が指定するA・B・C・D・E各科目群から、各2単位以上を含め、計34単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
- 臨床心理士受験資格取得のためには、上記(1)の修了に必要な要件を満たさなければならない。
- 公認心理師受験資格取得のためには、上記科目群中、括弧書きで公認心理師法が求める科目名が入った11科目21単位、及び「心理実践実習Ⅱ」9単位、「産業・労働分野に関する理論と支援の展開」2単位、「心の健康教育に関する理論と実践」2単位の、3科目13単位、計14科目34単位以上を修得しなければならない。なお、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）」と「心理実践実習Ⅱ」の合計時間は、450時間以上とする。

別表4—5 人間生活学研究科人間生活学専攻博士後期課程授業科目及び単位数

専門分野	授 業 科 目	単位数
臨 床 人 間 学	人間形成学 特別講義	4
	人間形成教育学 特別講義	4
	人間形成教育学 特別研究	4
	臨床心理検査学 特別講義	4
	臨床心理検査学 特別研究	4
	臨床生理心理学 特別講義	4
	臨床生理心理学 特別研究	4
	非行臨床心理学 特別講義 特別研究	4 4
食 生 活 学	臨床心理学 特別講義 特別研究	4 4
	栄養化学 特別講義 特別研究	4 4
	食品生化学 特別講義 特別研究	4 4
	食品分子構造学 特別講義 特別研究	4 4
	食品機能化学 特別講義 特別研究	4 4
	分子栄養学 特別講義 特別研究	4 4
	食品生物学 特別講義 特別研究	4 4
	調理機能学 特別講義 特別研究	4 4
	臨床栄養学 特別講義 特別研究	4 4
	生 活 環 境 学	生活経営学 特別講義 特別研究
生活経済学 特別講義 特別研究		4 4
家族関係学 特別講義 特別研究		4 4
衣生活環境学 特別講義 特別研究		4 4
住生活環境学 特別講義 特別研究		4 4
環境生理学 特別講義 特別研究		4 4
共 通	生活情報学 特別講義 特別研究	4 4
	生活習慣病学域	2
	生活習慣環境学域 老年病学域	2 2

修了に必要な要件は、博士論文にかかわる特別研究を含め、臨床人間学、食生活学及び生活環境学から8単位以上、共通から2単位以上合わせて10単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表5-1 看護学研究科看護学専攻博士前期課程
授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数			
		必修	選択		
共 通 科 目	看護理論	2			
	看護倫理	2			
	看護研究Ⅰ(概論)	2			
	看護研究Ⅱ(統計)		2		
	看護管理論		2		
	看護教育論		2		
	コンサルテーション論		2		
	アドヴァンスト・フィジカルアセスメント		2		
	チーム医療論		2		
専 門 科 目	基盤看護学	理論看護学特論		2	
		理論看護学演習Ⅰ		2	
		理論看護学演習Ⅱ		2	
		理論看護学特別研究		8	
	看護管理学	看護管理学特論		2	
		看護管理学演習Ⅰ		2	
		看護管理学演習Ⅱ		2	
		看護管理学特別研究		8	
	看護教育学	看護教育学特論		2	
		看護教育学演習Ⅰ		2	
		看護教育学演習Ⅱ		2	
		看護教育学特別研究		8	
	実 践 看 護 学	療養支援看護学	療養支援看護学特論(臨床)		2
			療養支援看護学演習Ⅰ(臨床)		2
			療養支援看護学演習Ⅱ(臨床)		2
			療養支援看護学特論(地域・在宅)		2
			療養支援看護学演習Ⅰ(地域・在宅)		2
			療養支援看護学演習Ⅱ(地域・在宅)		2
			療養支援看護学特別研究		8
			母子健康看護学	母子健康看護学特論	
母子健康看護学演習Ⅰ				2	
母子健康看護学演習Ⅱ				2	
母子健康看護学特別研究				8	

修了に必要な要件は、必修6単位を含め32単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表5-2 看護学研究科看護学専攻博士後期課程
授業科目及び単位数

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
共 通 科 目	看護科学哲学	2		
	看護学研究方法論	2		
	看護キャリア教育論		2	
	看護マネジメント論		2	
専 門 科 目	基盤看護学	理論看護学特論		2
		看護教育管理学特論		2
	実践看護学	療養支援看護学特論		2
		地域・在宅看護学特論		2
		母子看護学特論		2
演 習 ・ 研 究 科 目	理論看護学演習		2	
	看護教育管理学演習		2	
	療養支援看護学演習		2	
	地域・在宅看護学演習		2	
	母子看護学演習		2	
	看護学特別研究	8		

共通科目から必修科目2科目4単位及び選択科目1科目2単位を含め6単位以上、専門科目から研究課題に応じた選択科目を1科目2単位、専門科目で選択した演習科目を1科目2単位、「看護学特別研究」必修8単位、合計18単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表6 総合政策学研究科総合政策学専攻修士課程
授業科目及び単位数

授業科目		単位数	
		必修	選択
科体系 講義	総合政策学体系論	2	
公共 政策 分野	専 門 科 目	公共・法政策論Ⅰ	2
		公共・法政策論Ⅱ	2
		金融・経済政策論Ⅰ	2
		金融・経済政策論Ⅱ	2
	専 門 演 習 科 目	公共・法政策論演習Ⅰ	2
		公共・法政策論演習Ⅱ	2
		金融・経済政策論演習Ⅰ	2
		金融・経済政策論演習Ⅱ	2
	関 連 科 目	政策過程研究	2
		立法過程論	2
		政策実現プロセス論	2
		地域コミュニティ政策論	2
		経済分析特論	2
		理論経済学特論	2
応用経済学特論		2	
海外政策事情研究(外書講読)		2	
企 業 政 策 分 野	専 門 科 目	民商法政策論Ⅰ	2
		民商法政策論Ⅱ	2
		企業経営政策論Ⅰ	2
		企業経営政策論Ⅱ	2
	専 門 演 習 科 目	民商法政策論演習Ⅰ	2
		民商法政策論演習Ⅱ	2
		企業経営政策論演習Ⅰ	2
		企業経営政策論演習Ⅱ	2
	関 連 科 目	企業法制論(会社法・倒産法)	2
		マーケティング研究	2
企業会計政策特論		2	
税務会計特論		2	
共 通 分 野	専 門 科 目	高度情報化社会政策論Ⅰ	2
		高度情報化社会政策論Ⅱ	2
	専 門 演 習 科 目	高度情報化社会政策論演習Ⅰ	2
		高度情報化社会政策論演習Ⅱ	2
科 研 指 導 目	総合政策学特別研究	8	

修了に必要な要件は、必修科目10単位、専門科目より2科目4単位以上、専門科目で選択した専門演習科目より2科目4単位以上を含め合計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。(専門演習科目を履修する者は、同名の専門科目を履修すること。(公共・法政策論演習Ⅰ、Ⅱを履修する者は、公共・法政策論Ⅰ、Ⅱを履修すること、金融・経済政策論、民商法政策論、企業経営政策論、高度情報化社会政策論についても同様)

徳島文理大学大学院学位規程

(目的)

第1条 学位規則(平成3年6月文部省令第27号)第13条の規定に基づき、徳島文理大学(以下「本学」という)が授与する学位について、本学大学院学則に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は修士及び博士とする。

(学位授与の要件)

第3条 本学大学院薬学研究科(4年課程)、文学研究科、工学研究科、人間生活学研究科、看護学研究科及び総合政策学研究科の課程を経た者には、本学大学院学則の定めるところにより、修士又は博士の学位を授与する。

2. 博士の学位は本学大学院の博士課程を経ない者であっても、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格し、かつ、専攻学術に関し、本学大学院の博士課程を修了して学位を授与される者と同様に広い学識を有することを確認(以下「学力の確認」という)された場合には授与することができる。

(学位論文)

第4条 学位論文は1編とし、参考として他の論文を添付することができる。

(学位論文の提出)

第5条 第3条第1項の規定により学位論文の審査を願い出ようとする者は、学位論文審査願に学位論文、論文の要旨、論文目録及び論文審査料を添え、当該研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

2. 第3条第2項の規定により学位を請求する者は、学位申請書に学位論文、論文の要旨、論文目録、履歴書及び論文審査料を添え、当該研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

3. 審査のため必要があるときは論文の副本、訳本又は参考資料を提出させることができる。

4. 論文審査料は、修士論文10,000円、課程博士論文50,000円、課程外博士論文200,000円とする。

5. 受理した論文及び納付した論文審査料は返却しない。(審査委員会)

第6条 前条第1項又は第2項の規定により論文の提出があったときは、学長は本学大学院研究科委員会(以下「研究科委員会」という)の議を経てその論文の審査委員を定める。

2. 審査委員は主査1名、副査2名以上とし、研究科委員の中から定める。ただし必要に応じて研究科委員以外の本学教授又は准教授及び他大学の教授又は准教授を副査に加えることができる。

(論文審査、最終試験及び学力の確認)

第7条 審査委員会は論文の審査、最終試験及び学力の確認を行う。

2. 最終試験は、提出論文を中心としてこれに関連のある科目について行う。

3. 学力の確認は、口頭又は筆答試験により、専門学術に関し本学大学院において博士課程を経て学位を授与される者と同様に広い学識を有することを確認するために行い、外国語については1種類を課する。

4. 審査委員は前項の規定にかかわらず、学位の授与を申請する者の経歴及び提出論文以外の業績を審査して、試験の全部又は一部を行う必要がないと認めた場合は研究科委員会の承認を得て、その経歴及び業績の